

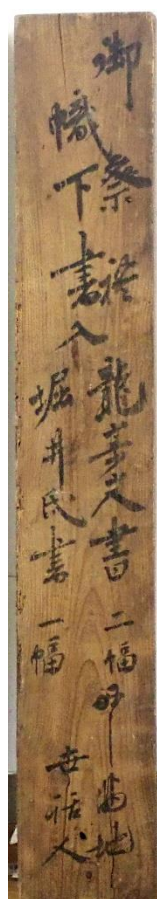
*幟に関する歴史的资料

・御坊町西町幟資料

(担当：裏直記)



「御祭礼幟下書入」には御坊町西町の幟の下書きがおさめられており、「西町中」の下書きに次のような記述が書かれた紙が貼付されていた。



明和元
申年書之

京師
堀井新右衛門書

断

以後染替之節者紙をつき墨二而字之へり写候方可然候此俣竹へらにて写候得者其跡方きす付下地之通破レ候殊ニ表打候得者紙はしかく相成候故随分なやみニ御用心可被下候

□□□□寛政四年子八月

亀井伊助

この記述からだけでは意味が判断できない内容も存在するが、明和元年（一七六四）に幟を新調し、その文字を京都の職人に依頼したこと、その後の染め替えの時の注意事項などが記されている。

また、幟箱も残されており、その蓋裏には次のような記述がある。この幟箱に記されていたものは、幟の文字と新調された年、そして染め賃と職人名が記載されている。前述の幟下書きを用いて染め抜いた幟を保管していた箱であることがわかる。

一西町 寛政三亥年

染賃三十歩棹代共 平助染

一放生会 寛政五年丑年 同人染

染賃金貳歩棹代共

一西町 文化六年巳年

平助染

一放生会 文化七年午年

同人染

一放生会 天保九年戌年 東町□平染

一にし町 弘化三年丙午年 □町□平染

染賃札三拾目 □□□

西町幟入



・中組幟資料

文化三年（二八〇六） 銘のある幟箱や幟（年代不詳）が残されている。



この幟箱に記されていたものは、幟の文字と新調された年、そして染め賃と職人名が記載されている。前述の幟下書きを用いて染め抜いた幟を保管していた箱であることがわかる。